

平成26年度
事業報告書

平成26年 4月 1日から
平成27年 3月31日まで

公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団

事業報告書目次

TOPICS

I	生命科学に関する学術奨励及び知識普及・啓発	
1	学術奨励事業	1
2	生命科学知識普及事業	2
II	生命科学に関する共同研究開発等の企画及び推進	
1	創薬・医薬に係る研究開発	4
2	バイオ医薬品の研究開発	5
3	横浜プロジェクト	5
4	かながわ成長産業イノベーション事業	5
III	生命科学の応用による産業活性化のための支援	
1	ライフサイエンス分野振興事業	6
2	バイオベンチャーアライアンス（BVA）の事務局運営	7
3	医工連携プロジェクト支援	9
4	海外販路拡大支援	9
5	横浜プロジェクト事業化支援	11
6	バイオ関連産業新規参入等支援事業	12
IV	生命科学に関する産業集積・技術支援のための研究開発施設の設置及び管理運営	
1	横浜バイオ産業センター（YBIC）事業	13

TOPICS

横浜市が策定した中期4か年計画に伴い、横浜市が推進する「健康・医療」の成長分野において、学術と産業振興に取り組んでまいりました。京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区においてプロジェクトの推進支援を行いました。横浜バイオ医薬品研究開発センターについては、予定を上回る調製受託案件数を達成して受注額を増やすことができ、また、生産技術の工程改良に向けた研究開発案件を計画通りに進めました。また、産業活性化支援においては、横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワークなどを生かし、バイオビジネスのマッチングセミナーを企画開催するとともに、バイोजパンへの出展支援など幅広い支援を行いました。

I 生命科学に関する学術奨励及び知識普及・啓発 (事業費支出 6百万円)

1 学術奨励事業

(1) 木原記念財団学術賞

生命科学の分野で優れた独創的研究を行っている研究者(満50歳以下)を表彰するため、「第23回木原記念財団学術賞」を実施しました。なお、今回は「木原記念財団学術賞 応用科学賞」も選ばれました。

募集期間：平成26年6月1日～9月30日

推薦依頼先：176箇所 学会(41)、研究所(21)、大学(114)

推薦数：10件

選考委員(50音順・敬称略・所属は委嘱時のもの) ※選考委員長

- ・大野 茂男(横浜市立大学大学院医学研究科教授)
- ・長田 裕之(理化学研究所環境資源科学研究センター副センター長)

※中村 義一(東京大学名誉教授)

- ・西村 善文(横浜市立大学大学院生命医科学研究科長)
- ・広海 健(情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所シニア・リサーチ・アドミニストレーター)

・福田 裕穂(東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻 教授)

・松原 謙一(大阪大学名誉教授)

財団理事会が委嘱する選考委員7名による厳正な選考の上決定した受賞者は以下のとおり。

<第23回木原記念財団学術賞>

受賞者：芦荻 基行氏 名古屋大学・生物機能開発利用研究センター教授

受賞研究：「イネの遺伝学研究による植物成長機構の解明と分子育種」

<第23回木原記念財団学術賞 応用科学賞>

受賞者：水島 徹氏 慶應義塾大学薬学部分析科学講座主任教授

受賞研究：「温故知新創薬研究基盤の確立と実践」

また、第22回木原記念財団学術賞の贈呈式・記念講演会を以下のとおり開催しました。

<第22回木原記念財団学術賞贈呈式・記念講演会>

開催日：平成26年5月20日（火） 会場：横浜市立大学木原生物学研究所

学術賞受賞者：後藤 由季子氏（東京大学大学院薬学系研究科教授）

受賞研究：「神経幹細胞の運命を制御する分子機構」

記念講演会演題：神経幹細胞の運命制御

2 生命科学知識普及事業

(1) 木原記念こども科学賞

身近な動物や植物に親しむことで、次代を担うこども達の科学の芽を育むことを目的として、「第22回木原記念こども科学賞」を実施しました。神奈川県内の小・中学生を対象に観察、調査、実験等の作品を募集し、238作品（62校）の応募がありました。

選考委員会による選考の結果15作品が入選し、表彰式を実施しました。

募集期間：平成26年7月1日～9月26日

後援：神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、川崎市教育委員会、横浜市立大学
木原生物学研究所

募集先：神奈川県内 全小・中学校

応募数：小学校低学年83作品、小学校高学年131作品、中学校24作品

選考委員（50音順・敬称略・所属は委嘱時のもの）※選考委員長

・坂井 敦（横浜市立上白根小学校教諭）

・青木 理（横浜市立末吉中学校校長）

・朝倉 友佳（横浜市環境創造局担当係長）

※小田 祥二（公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団常務理事）

・佐久間 俊（横浜市立大学助教） 予備選考委員

・菅谷 泰尚（横浜市立立野小学校教諭）

・平賀 裕嗣（横浜市立港南台第二小学校教諭）

・福田 博章（横浜市立末吉小学校教諭）

・古尾谷 浩之（洗足学園小学校教諭）

・金井 由巳（逗子開成中学校教諭）

入選詳細

	最優秀賞	優秀賞	努力賞
小学校低学年の部	1	2	3

小学校高学年の部	1	2	1
中学校の部	1	2	2

<第22回木原記念こども科学賞表彰式>

開催日：平成26年12月7日（日） 会場：横浜市立大学木原生物学研究所

表彰：最優秀賞3件、優秀賞6件、努力賞6件

講演 小さい実験：『おなか元気教室（カラダの元気はおなかから）』

神奈川県ヤクルト販売(株)健康管理士一般指導員 桂 智恵美氏

参加者：約90名

<作品集>

財団ホームページに、作品集を掲載しました。

(2) 高校生実習会

理科離れが進む中、将来の生命科学の発展を担う若い人材を育てるために、独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金の助成を受け、神奈川県内高校の在校生を対象に実習会を開催しました。

ア 『植物細胞の分化全能性と遺伝子組換え』

募集期間：平成26年5月30日～7月2日

募集先：神奈川県内 全高等学校

開催日：①平成26年8月2日（土）～8月3日（日）

②平成26年8月21日（木）～22日（金）

会場：横浜市立大学木原生物学研究所

協力・講師：横浜市立大学木原生物学研究所

准教授 川浦 香奈子氏、助教 佐久間 俊氏

参加者：①22名（9校）、②17名（10校）

イ 『植物タンパク質の不思議を考える』

募集期間：平成26年11月5日～12月3日

募集先：神奈川県内 全高等学校

開催日：平成26年12月25日（木）～12月27日（土）

会場：横浜市立大学金沢八景キャンパス

協力・講師：横浜市立大学大学院ナノシステム科学研究科

生命環境システム科学専攻

教授 田中 一朗氏、准教授 塩田 肇氏、准教授 沓名 伸介氏

参加者：24名（12校）

II 生命科学に関する共同研究開発等の企画及び推進 (事業費支出 417百万円)

大学や公的研究機関、中小企業などがもつ有望なシーズ・技術を掘り起こし、研究会の立上げや国等の公的資金を活用した産学連携による共同研究開発のプロジェクト化を進めました。当財団は、プロジェクトの申請や採択に向けた活動を行う他、採択後は、プロジェクトの中核機関・管理法人としての役割を担いました。

1 創薬・医療に係る研究開発

横浜・神奈川地域の大学や公的研究機関、中小企業などがもつ創薬・医療関連の有望なシーズ・技術について、共同研究を企画・運営し、実用化を目指しました。超音波画像装置の試作開発、3次元細胞培養システムによる大型ヒト軟骨デバイスの試作開発、ヒト尿細管細胞を組み込んだ急性腎不全治療のためのバイオ人工尿細管デバイス開発及び、低侵襲注射針を搭載した健康モニタリング機器の開発を、引き続き「京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区」(以下「特区」という。)の横浜プロジェクトにおける中核的事業として進めました。

(1) 超音波画像装置の試作開発プロジェクト

特にリンパ浮腫の診断や治療効果の判定に係る医療現場のニーズを満たすため、軽量小型かつ簡易に測定可能な皮下組織硬度を計測できる超音波画像装置の試作開発を行いました。今年度は、デバイス開発、アプリケーションソフトウェア開発及び患者の測定データ検証などを行いました。

受託金額：約4,700万円

参画機関：横浜市立大学医学部、(株)グローバルヘルス(横浜市内中小企業)、産業技術総合研究所、アイソン(株)

(2) バイオ人工尿細管デバイス開発プロジェクト

ヒト尿細管細胞を、腎不全を治療するための血液ろ過器の中空糸に生着させたバイオ人工尿細管デバイスを開発し、重症の急性腎不全に対する救命率を向上させるものです。今年度は、新たな維持用培地の開発、デバイスの安全性検証及び尿細管細胞が患者血液に移行しないためのフィルター開発などを行いました。

受託金額：約4,500万円

参画機関：東海大学、(株)リプロセル(横浜市内中小企業)、ニプロ(株)、(株)細胞科学研究所

(3) ヒト軟骨デバイス実用化のための3次元細胞培養システムの開発プロジェクト

世界で唯一の大型軟骨組織を高効率に形成するための新技術として、ヒト軟骨組織の再生に有効な軟骨前駆細胞を分離培養し、大型軟骨を構築するための3次元細胞培養システムを開発するものです。今年度は、3次元細胞培養装置の開発及び再生医療向け3次元細胞培養システムの開発などを行いました。

受託金額：約 7, 000 万円

参画機関：(株)ジェイテック、横浜市立大学医学部、産業技術総合研究所、大阪大学

- (4) 微量血液の採取を目的とした低侵襲針と吸引ユニットの試作開発プロジェクト
疾病の早期発見のために、採血ストレスを解消する、痛みの少ない低侵襲注射針と吸引ユニットを開発するものです。今年度は吸引ユニットの作製、マウスを用いた非臨床研究及び低侵襲針のヒト臨床研究などを行いました。

受託金額：約 3, 800 万円

参画機関：(株)DNAチップ研究所（横浜市内中小企業）、高電工業(株)、東海大学、慶應義塾大学医学部

2 バイオ医薬品の研究開発

バイオ医薬品に関する共同研究開発や教育の機能、及び GMP 基準に適合したバイオ医薬品治験薬(原薬)等の調製機能を持つ横浜バイオ医薬品研究開発センター(YBIRD)において、大学や公的研究機関、企業がもつ有望なバイオ医薬品シーズや生産技術シーズについて、共同研究や受託研究によりその実用化を促進する活動を企画・実施しました。具体的には、バイオ医薬品等候補である遺伝子組換えタンパク質の調製やタンパク質生産技術に関する研究開発案件 19 件、バイオ医薬品開発に関するセミナーを含む教育研修 7 件を手がけました。

3 横浜プロジェクト

横浜プロジェクトのうち、超音波画像装置、バイオ人工尿細管デバイス、3次元細胞培養システムを用いたヒト軟骨デバイス、及び低侵襲針を搭載した健康モニタリング機器については、国の特区推進調整費を活用し、事業管理機関として、平成 26 年 10 月から平成 27 年 2 月末まで経済産業省関東経済産業局から事業を受託しました(上記 1 (1) ~ (4) 参照)。また、新たなプロジェクトの可能性を求めて、医療ニーズの探索も行いました。

4 かながわ成長産業イノベーション事業

成長産業の振興と地域に根ざした雇用の創出を支援することを目的とした神奈川県委託事業において、がん治療のための薬物送達システム(DDS)キャリアの開発プロジェクト、及び希少疾病治療薬を目指した化合物の合成技術の開発プロジェクトを支援しました。

- (1) 直接がん細胞をターゲットするがん治療 DDS キャリアの開発プロジェクト

受託金額：約 1,000 万円

事業実施法人：ナノデックス株式会社

ナノデックス社がこれまで開発した葉酸修飾シクロデキストリン化合物を実用的

な DDS キャリアとして開発することを目的とし、有機化学的な分子設計により機能向上の研究を行いました。がん細胞に薬物を直接到達させ、抗がん効果向上と副作用軽減を可能とする DDS キャリアとして製薬企業等にライセンスアウトすることを目指しています。

(2) 希少疾病治療薬を目指した化合物の合成技術の開発プロジェクト

受託金額：約 1,000 万円

事業実施法人：株式会社藤本分子化学

これまでの基礎研究で、酵素阻害活性をもつ天然物由来の化合物を見出しており、本プロジェクトでは、医薬原料としての最適化のための化学合成を行うこととし、誘導体の合成に取り組みました。特許化を経て製薬企業にライセンスアウトすることを最終目標としています。

III 生命科学の応用による産業活性化のための支援 (事業費支出 42 百万円)

1 ライフサイエンス分野振興事業

神奈川県委託事業で、バイオ分野の研究機関、大学、ベンチャー企業、大企業等により構成される横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワークの拡大・強化を図るとともに、コーディネート活動やライフサイエンス分野の事業化・事業参入の促進を図る取り組みを実施することで、県内におけるライフサイエンス関連産業の振興を目指すものです。

(1) ネットワークの拡充・強化

バイオビジネス・パートナーリングやバイोजアパンなど様々な機会を通じて参加を働きかけた結果、新たに 17 企業・機関がネットワークの会員となったほか、外部ビジネスネットワークとの交流も行いました。

(2) 事業化に向けた支援

ネットワーク会員に対して、専門コーディネータによる関係企業・大学・研究機関等とのマッチング支援や、国・自治体・公的機関等の助成金等獲得支援策を実施するとともに、早期の事業化が見込めるプロジェクトについて、重点的な支援を行いました。具体的には、技術及び事業化に関する相談対応 7 件、マッチング支援 7 件、助成金等獲得支援 8 件でした。

(3) マッチングイベント等の開催

ア 事業化促進セミナー

日時：平成 26 年 8 月 26 日 (火) 13:30~17:00

会場：横浜崎陽軒

タイトル：KANAGAWA Bio Seminar + 知財個別相談

講演者：(株)コーポレートディレクション 米倉 淳一郎氏

「具体事例から学ぶバイオベンチャー経営の要点ー不必要な死を避けるためにー」

長谷川国際特許事務所 弁理士 中谷 智子氏

「特許権利化デザインと最新の話題」

MOLCURE CEO 小川 隆氏

「高速抗体スクリーニングシステム Abtracer の創薬基盤技術としてのロードマップ」

㈱UMNファーマ 取締役 橋本 裕之氏

「テクノロジーベンチャーにおけるアライアンスとは？」

参加者：54名

イ バイオビジネス・パートナーリング

バイオベンチャー等によるプレゼンテーションの場を設けることで、県内のバイオベンチャーの成長促進、有望な研究成果の事業化促進を図るとともに、会員間の連携促進やビジネスのきっかけ作りを行いました。

日時：平成27年3月18日（水）13：30～17：00

会場：ヨコハマプラザホテル

タイトル：第22回バイオビジネス・パートナーリング

基調講演：ラクオリア創薬㈱ 常務 河田 喜一郎氏

「当社の成長戦略とバイオベンチャーが直面する課題」
12社によるプレゼンテーション

参加者：54名

ウ マッチングイベント

製薬会社の研究員に神奈川県内中小企業の技術や製品を売り込むため、企業内展示会を開催しました。展示会后、早速に発注があるなど、中小企業の売上げ増加に貢献しました。製薬会社にとっては、新規サプライヤー開拓、アイディアの吸い上げ及びコスト削減等につながると高い評価を得ました。

日時：平成26年10月7日（火）11：30～13：30

会場：中外製薬㈱鎌倉研究所

参加企業：6社

(4) バイオジャパン2014への出展支援

バイオジャパン2014（平成26年10月15日（水）～17日（金）パシフィック横浜）において、横浜市、川崎市、KSP等と共同で「神奈川パビリオン」を設置し、新規出展2社を含む31社・5団体を支援しました。

2 バイオベンチャーアライアンス（BVA）の事務局運営

BVAは異分野のバイオ系ベンチャーが連携・協力し、新たな研究開発や事業の創

出を目指す企業の連携体です。今年度はBVAの会員拡大を図るために3回のセミナーを開催し、9社の新規加入を実現しました。また、事業方向性を定める前からサポートに注力し、企業経営や研究開発に深く関与していくこととしました。

(1) 第1回セミナー

日時：平成26年6月30日（月）14：00～17：30

場所：ヨコハマプラザホテル

タイトル：10年後の生命科学産業の姿を考える（Ⅰ）

講演者：(株)日本政策金融公庫 南関東創業支援センター長 黒武者 潤次氏

「ベンチャー企業向け融資制度等のご紹介ー資金調達の新たなカタチー」

横浜市立大学大学院医学研究科臓器再生医学准教授 武部 貴則氏

「臓器再生医療のこれからの10年」

(株)カンタージャパン 代表取締役社長 大竹 秀彦氏

「海外からみた日本の健康産業の特徴と未来」

参加者：50名

(2) 第2回セミナー

日時：平成26年10月2日（木）14：00～17：30

場所：ヨコハマプラザホテル

タイトル：10年後の生命科学産業の姿を考える（Ⅱ）ーオープンイノベーションの時代を迎えてー

講演者：横浜薬科大学 天然物化学研究室・創薬研究センター長 教授 高橋 孝志氏

「薬工連携による新しいビジネスの可能性ーラボオートメーションと化合物ライブラリーー」

(独)産業技術総合研究所 創薬分子プロファイリング研究センター長 夏目 徹氏

「汎用ヒト型ロボット<まほろ>によるライフサイエンス革命」

大阪大学大学院医学系研究科 医療経済産業政策学教授 田倉 智之氏

「医工連携のこれからの方向性ー医療産業政策の観点から失敗事例を踏まえてー」

参加者：50名

(3) 第3回セミナー

日時：平成27年2月27日（金）15：00～17：30

場所：ヨコハマプラザホテル

タイトル：10年後の生命科学産業の姿を考える（Ⅲ）ーこれからの潮流を見据えて何をすべきかー

講演者：東京大学名誉教授 SBIバイオテック(株)取締役会長 新井 賢一氏

「生命科学産業の課題とこれからの潮流－国内バイオベンチャーの活性化に向けて－」

参加者：50名

3 医工連携プロジェクト支援

臨床ニーズを基にした新たな医療機器等の研究・開発を促進し、横浜市内中小企業参画や医療の質の向上を支援するため、以下の業務を行いました。

(1) 臨床ニーズ調査

医師や研究者に対して医療機器等のニーズや研究内容をヒアリングするもので、今年度は、横浜のアカデミアにおける研究が世界的にも先行している再生医療関連分野へ横浜市内中小企業が参入することを目指し、再生医療関連の医師や研究者を中心にヒアリングを行いました。

(2) プロジェクト促進モデル事業の実施

「カテーテルナビゲーション開発プロジェクト」及び「PET-CT画像自動診断ソフトウェア開発プロジェクト」について、事業化を促進するための開発支援を行うとともに、(1)の臨床ニーズ調査から見出された「iKnifeの開発もしくは導入のための調査プロジェクト」と「iPS細胞を用いた肝機能デバイス開発プロジェクト」においては、それぞれ専門家を選定して実現可能性等を検討し、開発支援を行いました。

(3) 医療機器等産業等振興策の検討

横浜市の産業構造や高齢化率の伸長等の社会構造の変化を考慮したうえで、中小企業振興につながる医療機器等産業の振興戦略を立案することを目的とし、横浜市の資源の分析、横浜市のありたい姿、健康・医療ものづくり関連産業振興の課題等について検討し、産業振興戦略、アクションプランとロードマップ、期待される経済効果等を含む中長期戦略調査報告書をまとめました。

4 海外販路拡大支援

海外販路拡大意欲の高い県内中小企業の海外売上向上を目指した神奈川県委託事業です。

(1) 海外PR冊子の作成

支援対象企業10社の海外PRを効果的に行うため、グラフィックデザインにも配慮した英文PR冊子を作成しました。

(2) 海外営業担当者を対象とした研修会の開催

支援対象企業及び県内中小企業の海外営業担当者を対象に、海外での販路拡大に資する研修内容を企画し、講師・会場を選定し、段階別セミナーを2回開催しました。

ア 1回目

日時：平成26年11月21日（金）14：00～17：20

会場：ヨコハマプラザホテル

タイトル：製薬産業海外販路拡大支援セミナー（医薬品基礎編）

後援者：東北大学大学院薬学研究科 客員教授 長 秀連氏

「医薬品のDiscoveryとDevelopment」

(株)ユーディーアール 取締役 小椋 貴央氏

「米国バイオ市場の潮流：R&D、M&A、ライセンスング」

トムソン・ロイター・プロフェッショナル(株) ソリューションスペシャリスト 美根 香織氏

「医薬品開発において押さえるべき情報とその分析～将来のライセンス活動を見据えて～」

参加者：20名

イ 2回目

日時：平成26年12月3日（水）14：00～17：10

会場：ヨコハマプラザホテル

タイトル：製薬産業海外販路拡大支援セミナー（出口戦略編）

後援者：アストラゼネカ(株)クリニカルサイエンス統括部 アライアンス戦略企画マネージャー 影山 明彦氏

「外資製薬会社の日本支社アライアンス担当がバイオベンチャーに期待すること」

医薬ライセンス研究所 代表取締役 岩並 澄夫氏

「医薬品・技術のライセンス及び研究提携の基本と実践」

(株)ジェノメンブレン 代表取締役 仙田 哲氏

「ジェノメンブレンの米国進出事例のご紹介」

エクスプローラーアソシエイツ 代表 原 隆氏

「Bio-Research tool（試薬・機器／器具・サービス）の海外進出について」

参加者：22名

(3) 海外での販路拡大支援

海外の展示会への出展支援や海外企業とのビジネスマッチングなどを通じて、県内中小企業の海外売上向上を図りました。

ア Bio-Europe 2014 出展支援

日時：平成26年11月3日（月）～11月5日（水）

場所：ドイツ フランクフルト Portalhaus Messe

同行者：(株)バイオメッドコア 取締役 若林 拓朗氏

Bio-Europeはバイオテクノロジー分野でヨーロッパ最大の展示・商談

イベントです。今回は世界54カ国から1,768社、3,243人が参加し、個別商談会ではミーティング総数17,902件が実施され、(株)バイオメッドコアは37件の商談を行いました。

イ Biotech Showcase 2015 出展支援

日時：平成27年1月12日（月）～1月14日（水）

場所：アメリカ サンフランシスコ Parc 55 Wyndam

同行者：ジェイファーマ(株) 代表取締役 遠藤 仁氏

Biotech Showcaseは、製薬企業の事業開発担当役員に加えて、テクノロジートランスファー、投資家などが参加する、近年参加者数・ミーティング数ともに急速に成長している商談会です。今回は2,161人が参加し、個別商談会ではミーティング総数4,200件が実施され、ジェイファーマ(株)は20件の商談を行いました。

ウ SLAS (Society for Laboratory Automation and Screening) 2015 出展支援

日時：平成27年2月9日（月）～2月11日（水）

場所：アメリカ ワシントンDC Walter E Washington Convention Center

同行者：SCIVAXライフサイエンス(株) 水野 篤志氏

SLASは、ラボ（研究・検査）の自動化、創薬における探索・スクリーニング技術及び分析技術開発などの領域における産業界、学会、及び政府機関からの参加のもと、研究発表、ネットワークング、フォーラムなどが行われる学会です。今回は世界34カ国から4,695人が参加し、SCIVAXライフサイエンス(株)は会場の一角にブースを設け、自社技術の展示とPRを行った結果、50件以上のコンタクトがありました。

5 横浜プロジェクト事業化支援

横浜市補助の「横浜プロジェクト推進事業」として、任期付職員を雇用し、特区の目標である国際競争力のある革新的な医薬品や医療機器の開発、新たな健康関連産業の創出を一層推進するため、「予防・健康」「診断」「再生医療」など7分野にわたる「横浜プロジェクト」について、特区のメリット活用に向けた支援、産学連携支援に取り組みました。

特に今年度は、各プロジェクトをあらためてヒアリングしたり、有識者との意見交換会を開催したりして、開発課題・要点の整理・確認を進めました。また、平成27年2月にパシフィコ横浜で開催されたテクニカルショー2015期間中に横浜市が主催した特区セミナーにおいて、横浜プロジェクトの開発事例などを紹介して特区への取組み方や開発成果の認知を促しました。

6 バイオ関連産業新規参入等支援事業

横浜市の委託事業で、市内中小企業が自らの技術を活かしバイオ関連産業に係る技術の開発という先端分野に参入する機会を提供するとともに、横浜発の高度なバイオ医薬品製造技術や周辺機器等を創出する支援を行いました。

(1) 市場性調査

バイオ医薬品製造・再生医療・再生医療周辺産業等の市場構造、関連事業の競争環境、製造装置等の技術開発対象の構造分析、バイオ関連産業への参入余地等について、米国カリフォルニア州サンディエゴ市で2014年6月に開催された世界最大級のバイオ関連イベントであるBI02014に参加し、バイオ関連産業の最新の技術動向の解説を含む市場性調査報告書を作成しました。

(2) ヒアリング

企業・アカデミアの技術を探索し、また、具体的なニーズ情報を得るために、7企業・2大学に対してヒアリングを行いました。

(3) セミナーの開催

市内中小製造企業等のバイオ医薬関連産業の新規参入に資する、情報提供のためのセミナーを開催しました。

ア バイオジャパンスポンサーセミナー

日時：平成26年10月15日（水）12：40～14：40

場所：パシフィコ横浜 F203

タイトル：科学的合理性に基づくバイオ医薬品開発のあり方について

講演者：近畿大学薬学総合研究所長 早川 堯夫氏

「科学的合理性に基づくバイオ医薬品開発のあり方について—規制面からの視点—」

協和発酵キリン(株)経営企画部マネージャー 内田 和久氏

「バイオ医薬品：製造とサイエンスと規制に関する考案—製造する立場から—」

パネルディスカッション：モデレーター エーザイ(株)エーザイプロダクトクリエーションシステムズ シニアサイエンティフィックアドバイザー 吉松 賢太郎氏

参加者：69名

イ YBIIRD技術セミナー

日時：平成26年12月5日（金）13：00～17：00

場所：TKP横浜ビジネスセンター ホール7A

タイトル：バイオ医薬品研究開発におけるアウトソーシングの基本活用法

講演者：(公財)木原記念横浜生命科学振興財団 村戸 康人

「微生物・動物細胞の両方の発現系に対応したタンパク質調製・プロセス開発サービスのご紹介」

ロンザジャパン(株) 受託製造開発事業部マネージャー 杉森 美帆氏
「開発早期からのバイオ医薬品開発リスク低減戦略—in silico ツールの活用と細胞株の構築について—」

シグマアルドリッチジャパン合同会社 コマーシャル SAFC 営業本部シニアセールススペシャリスト 坪井 卓也氏

「培地開発サービスと原材料の特性解析について」

日本チャールス・リバー(株)営業部 Biologics グループ キーアカウントマネージャー 築山 美奈氏

「バイオ医薬品におけるウイルス安全性評価」

(株)東レリサーチセンター 医薬信頼性保証室マイスター 水野 保子氏

「抗体医薬品をはじめとしたバイオ医薬品の特性解析」

参加者：73名

ウ バイオ産業向け機械・装置の開発製造ビジネスとのパートナーシップ

日時：平成27年3月17日（火）15：00～17：00

場所：ヨコハマプラザホテル

タイトル：バイオとメカトロの接点

講演者：(公財) 木原記念横浜生命科学振興財団 村戸 康人

「バイオテクノロジー産業の概要」

エイブル(株)/(株)バイオット 代表取締役会長 石川 陽一氏

「バイオとメカトロの接点」

参加者：25名

(4) 研究会の開催

バイオ医薬品製造技術等に係る具体的な事業化テーマについて、本産業分野における木原財団のネットワークのなかからコアメンバーをつくり研究会を開催して検討を進めようとしています。今年度は、新規バイオリアクターの事業化可能性に関する予備検討を進め、研究会を3回実施しました。

IV 生命科学に関する産業集積・技術支援のための研究開発施設の設置及び管理運営

(事業費支出 123百万円)

1 横浜バイオ産業センター（YBI C）事業

バイオ関連企業や研究機関の研究、開発、生産等を支援する賃貸施設（YBI C）の管理・運営を行いました。今年度は財団主催セミナーや入居者交流会など、入居企業の満足度を高める取組を行い、100%の入居率を維持しました。